

令和 6 年 2 月 29 日

多賀城市議会 議長 殿

会 派 名 多賀城の未来を照らす会

代表者名 池田 純



調 査 研 究 報 告 書

このことについて、下記のとおり実施したので、概要を報告します。

記

1 報告者（参加者）

(1) 代表 池田純



2 調査研究の概要

□調査期間：令和6年2月9日（金）～令和6年2月10日（土）

□調査目的：多賀城創建1300年記念事業の今後の展開に対し、より実効性のある提案を行うため、奈良時代、朝廷の出先機関として、陸奥・出羽（東北）地域を治めていた本市とほぼ同じ時期に西海道（九州）を治める役所として機能していた太宰府市の歴史や伝統文化に対する見識を深めるとともに、開催が予定されている令和の万葉大茶会が円滑に執り行えるよう議員の立場から支援するため、今年度開催地の調査及び協力団体へのヒアリングをするもの。

□調査手法：視察調査

□行 程：添付行程表のとおり

□調査先及び調査事項

調査日時	調 査 先	調査事項及び現地視察の有無
9 日（金） 15:00～16:30	福岡県福岡市西区	九州大学水素エネルギー国際研究センター （研究内容、大茶会への協力内容、水素エネルギー普及可能性等をヒアリング）
10 日（土） 9:30～11:30	福岡県大宰府市	九州国立博物館視察
10 日（土） 12:30～18:30	福岡県大宰府市	万葉大茶会視察

□調査資料：添付調査先作成資料のとおり

3 調査の概要

別紙のとおり

4 所感（今後の市政に資する点）

別紙のとおり



(別紙)

●調査の概要

(1) 九州大学水素エネルギー国際研究センター

①日 時：令和6年2月9日（金）15:00～16:30

②相手方：佐々木一成センター長 他

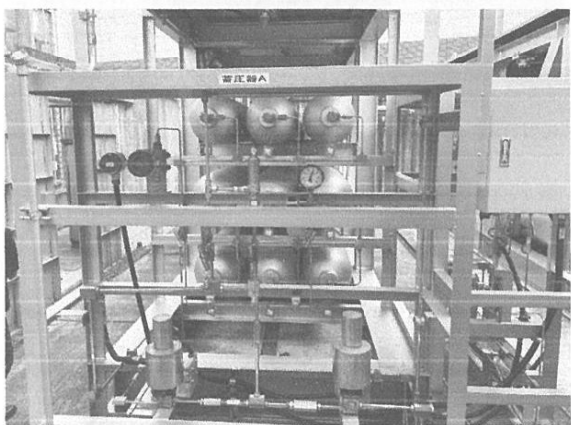
③内 容：

九州大学水素エネルギー国際研究センター（以下「センター」という。）は、燃料電池を核にした水素エネルギー社会の実現のため、脱炭素社会実現に向けたキーテクノロジーである水素エネルギーに関する世界的な研究教育拠点として、水素の製造から貯蔵、利用、安全までのエネルギー体系の研究教育を進めている。最先端研究に従事するのみならず、水素ステーション等の「水素社会ショールーム」を伊都キャンパス内で運営している。

また、令和の万葉大茶会は、万葉集の時代の歴史を令和の時代、そして将来に渡って紡いでいけるよう、自然環境に配慮し、水素エネルギーの普及についても併せて発信するコンセプトであり、センターにおいても大茶会に協力しているところである。

今回は、水素社会ショールームを視察した後に、佐々木一成センター長から、研究内容、大茶会への協力内容、水素エネルギー普及可能性等をヒアリングしたものである。

イ 水素ステーション、水素自動車、水素貯蔵施設等を視察（15:00～15:50）



ロ 研究内容、大茶会への協力内容、水素エネルギー普及可能性等のヒアリング
(15:50～16:30)

佐々木センター長より（主な発言）

- ・脱炭素に向けては水素エネルギーの活用がカギ
- ・センターでは、産学官地域連携により、水素エネルギー技術を生かした低炭素社会の実現に貢献することを目指している。
- ・水素はエネルギーを貯めやすい特徴を活かし、燃料電池として燃やさずに発電できる。
- ・水素エネルギーの普及のためには、低コスト化や長期にわたる技術開発と普及戦略の策定はもちろん、水素は扱いづらいという風潮を払拭する必要がある。
- ・政府の審議委員として、水素基本戦略の策定や、水素社会関連法案の検討に尽力した。
- ・大茶会では、水素燃料電池キッチンカーによる、「特製ブイヤベース」等の振る舞いもあるなど、水素の活用と啓発が図られていることから、センターとしても協力している。
- ・水素エネルギーの普及に向けては、水素ステーションの普及等自治体での取り組みも大事。各自治体の特性に合わせ施策を推進する必要がある。

(2) 九州国立博物館

①日 時：令和6年2月10日（土）9:30～11:30

②内 容：

常設展として、大宰府の歴史を含む対外文化交流の歴史についての展示をボランティアガイドの解説のもと観覧したほか、特別展「生誕270年 長沢芦雪 — 若冲、応挙につづく天才画家」も併せて観覧した。



(3) 令和の万葉大茶会

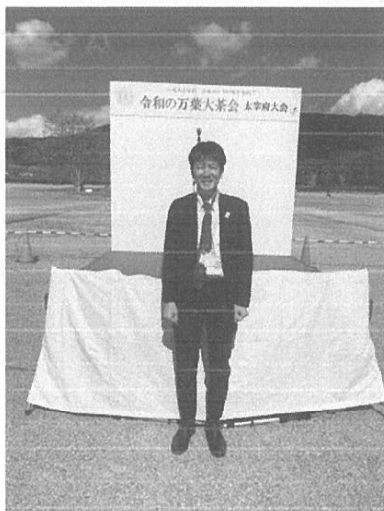
①日 時：令和6年2月10日（土）12:30～18:30

②内 容：

大茶会は、新元号「令和」の典拠となった万葉集「梅花の宴」の再現や茶会、万葉故地巡り、基調講演、交流会等を実施するものである。万葉集の編者である大伴家持ゆかりの地域で令和元年度から開催。今回は福岡市大宰府で開催された。

イ 記念式典（12:30～12:50）

大宰府政庁跡において、楠田大宰府市長、不老令和の都だざいふ万葉大茶会実行委員長、から、伊藤信太郎環境相、佐々木九州大学水素エネルギー国際研究センター長等から開会の挨拶があったもの。



ロ 梅花の宴再現イベント（13:00～14:00）

記念式典終了後、同敷地内において、梅花の宴再現イベントが行われ、参加者が万葉衣装により、歌詠みを行った。

ハ 令和の万葉大茶会（14:30～15:30）

大宰府天満宮参道を万葉衣装でパレード後、「令和の万葉大茶会」を観覧。



ニ 講演会・大会キー伝達式（16:00～18:30）

九州国立博物館において以下のとおり举行

- ・基調講演① テーマ：令和のふるさとで未来を考える～地域がはぐくむ環境ビジネスと暮らし～（環境省環境経済課長 平尾禎秀氏）
- ・基調講演② テーマ：旅人と家持（國學院大學文学部日本文学科教授（特別選任）、奈良大学名誉教授 上野誠氏）
- ・参加自治体による挨拶（東京都狛江市、富山県高岡市、鳥取県鳥取市、宮城県多賀城市、奈良県高市郡明日香村、鳥取県倉吉市、埼玉県行田市）
- ・服部福岡県知事と楠田大宰府市長より深谷多賀城市長へ大会キー（木簡）の伝達



※なお、19時30分より、ホテル日航福岡で関係者による交流会が举行された。

●所感

令和6年度の大茶会が多賀城市で行われるにあたり、令和5年度開催地の太宰府市を視察した。私自身は初めての参加となったが、大茶会のコンセプトや目的等について理解を深めることができた。歴史を共有する関係自治体とともに多賀城市がその歴史を全国に発信できるまたとない機会となるものと確信した。

一方で、太宰府大会では、関係者が多く、観光客や地元住民等の参加が少なく感じた。多賀城創建1300年を契機とする本市の観光振興に活かすには、多賀城大会で広報に工夫が必要だと感じた。また、会場が複数あり、参加者の移動手段の確保やタイムキープについて、事前の綿密なシュミレーションが大事だと感じた。

また、大会コンセプトの水素エネルギーの普及啓発についても、一般の方にはなかなか理解しづらいものと思うので、県などの関係機関との連携が重要だと考える。

九州大学水素エネルギー国際研究センターからは、水素エネルギーの普及に向けた研究内容や課題等、非常に示唆に富んだ話をいただいた。2050年までのゼロカーボンシティを宣言した多賀城市においても、将来的な水素エネルギーの普及が必要不可欠であり、宮城県と連携しながら、本市の施策展開について今後提言していきたい。

九州国立博物館では、国立ならではの規模の大きさに圧倒された一方、ボランティアガイド等、地元の方の協力があって運営されており、本市に立地する県立東北歴史博物館との連携等についても今後研究していきたい。

最後に、今回の視察にあたり、お招きいただいた令和の都だざいふ万葉大茶会実行委員会の皆様や視察を受け入れていただいた九州大学水素エネルギー国際研究所の皆様はじめ、関係の皆様にご心より御礼申し上げ報告とさせていただきます。

宮城県多賀城市議会 会派行政視察等 行程表
 <調査研究用>

会派名「多賀城の未来を照らす会」

■日 程：令和 6年 2月 9日（金）～ 2月11日（日）

日 程	行 程
<1日目> 2月9日（金）	多賀城市 8:00 発【自家用車同乗】→ 仙台空港 9:00 着 → 仙台空港 10:15 発【飛行機】→ 福岡空港 12:35 着 → 福岡空港 13:51 発【福岡市営空港線（筑前前原駅行）】→ 九大学研都市駅 14:27 着 → 九大学研都市駅 14:32 発【九州大学線〔周船寺経由〕〔昭和バス〕】→ 九大工学部 14:51 着 → （徒歩）→ 九州大学水素エネルギー国際研究センター（15:00～16:30 視察）→ （徒歩）→ 九大工学部 16:32 発【九州大学線〔学園通経由〕〔昭和バス〕】→ 九大学研都市駅 16:52 着 → 九大学研都市駅 16:59 発【（JR 肥後線福岡空港駅行）】→ 博多駅 17:30 着 → 博多駅 17:43 発【JR 鹿児島本線大牟田駅行】→ 二日市駅 18:04 着 → （徒歩）→ 宿泊先 18:15 着 ■宿泊：二日市温泉 大観荘 福岡県筑紫野市湯町 1-12-1 ☎092-922-3236 ■調査事項等：九州大学水素エネルギー国際研究センター（令和の万葉大茶会協力団体に対し、研究内容、大茶会への協力内容、水素エネルギー普及可能性等をヒアリングするもの）
<2日目> 2月10日（土）	宿泊先 8:50 発 → （タクシー）→ 九州国立博物館見学 → （タクシー）→ 太宰府政庁跡（万葉大茶会開場）12:05 着 → 大茶会開催状況視察 12:30～18:00 → （シャトルバス）→ ホテル日航福岡（交流会）19:30～21:30 → （シャトルバス）→ 宿泊先 22:15 着 ■宿泊：二日市温泉 大観荘 福岡県筑紫野市湯町 1-12-1 ☎092-922-3236 ■調査事項等：九州国立博物館（歴史・文化施設等現地調査） 令和の万葉大茶会（開催状況等現地調査）
<3日目> 2月11日（日）	宿泊先 10:40 発（徒歩）→ 筑紫野駅（二日市温泉入口）10:52 発 → 福岡空港国内線ターミナル北駅 11:14 着 → （徒歩）→ 福岡空港 11:20 着 → 福岡空港 14:00 発 → 仙台空港 15:40 着 → （自家用車同乗）→ 多賀城市 17:15 着

※ 調査期間は2月9日から10日まで

「古の時代」と「未来」をつなぐ。

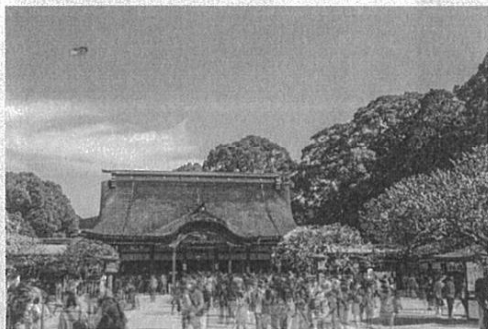
わが園に梅の花散る
ひさかたの天より雪の
流れ来るかも



旅人と家持
令和ゆかりの地を訪ねて

令和の 万葉 大茶会

2023年度 太宰府大会
～ 令和の都 だざいふ ～



日時：令和6年2月10日（土）

会場：福岡県太宰府市 大宰府政庁跡・太宰府天満宮文書館
九州国立博物館 ミュージアムホール



令和の都 だざいふ
The Origin of Reiwa

ようこそ「令和の都 だざいふ」へ。 歴史とともに、皆様をお迎えいたします。



令和の都だざいふ万葉大茶会
実行委員会 会長

不老 安正

「初春の令月にして気淑く風和らぎ 梅は鏡前の粉を披き 蘭は珮後の香を薫らす」

「令和」は、日本最古の歌集である万葉集に掲載された上記の歌を典拠とし、制定されました。そして、太宰府市は、その「梅花の宴」が実際に行われた地であります。「万葉集」・「梅花の宴」の原点と言えるこの地で、皆様をお迎えできることに、喜びと感謝を感じております。

万葉集の編纂者・大伴家持の父である大伴旅人が、大宰帥(長官)としてこの地に赴任していた時、当時めずらしかった梅の花を愛で、32首の歌を詠みあった「梅花の宴」は、当時、13歳だった家持に影響を及ぼしたと考えられます。その後、大伴家持は成長し、「万葉集」の編纂者として、後世に名を残すとともに、日本に、唯一無二の文化資産を生み出すこととなります。

「令和の万葉大茶会」は、これまで、「東京」「高岡」「鳥取」にて開催されてまいりました。今回、コロナ禍以降、初めての開催を、「万葉集」・「梅花の宴」の原点である「太宰府」にて行わせていただくことも、新しい時代に向かって象徴的な事であると感じるとともに、厳しい状況下、本事業のバトンをリレーしていただいた各地の大会関係者の皆様には深く感謝申し上げます。今回の太宰府大会を通じて、そのバトンを、しっかりと次の多賀城市様及び、それ以降に開催の地にお渡ししたいと考えております。

今回の大会では、その「梅花の宴」が行われたと言われる大宰府政庁跡にて、「梅花の宴 再現」を行います。オリジナルに限りなく近い場所で、古代の風景を現代によみがえらせる取り組みであり、太宰府ならではの自負しております。時期的にも、2月は梅のシーズンであり、「梅花の宴」が実際に開催された時期に近い時期となっています。

太宰府市には、万葉ゆかりの地として、「大宰府政庁跡」、「大宰府展示館」、「坂本八幡宮(大伴旅人邸候補の1つ)」を中心に、多くの施設があります。また、太宰府市のもう一つの観光の拠点である「太宰府天満宮」は、インバウンド観光客にも大変人気がある場所です。現在、「御本殿」は124年ぶりの“令和の大改修”が行われています。約3年間を要する大改修にあたり、その期間は御本殿前に「仮殿」が建設されておりますが、その造形美から、大変高い評価を得ています。今回は、限られた時間ではございますが、ぜひ、そうした地もご訪問いただければ幸いです。

未来へこの自然を伝えていくために、水素エネルギーを活用し、広く発信していきます。

旅人・家持親子のこの地での生活に思いをはせつつ、皆様とともに、文化・歴史・未来を共有できることを感謝し、あいさつの言葉とさせていただきます。

巻5・822 大伴旅人

わが園に 梅の花散る

ひさかたの 天より雪の 流れ来るかも

[現代語訳 わが庭に梅の花が散る。天から雪が流れて来るのだろうか。]

新元号「令和」は、万葉集巻五「梅花の歌」の漢文の「序」(じょ)からの出典です。

「初春の令月にして、気淑く 風和らぎ、

梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす(梅花の歌三十二首并せて序)」



令和の 万葉大茶会

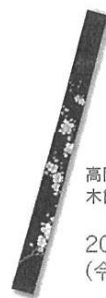
初春の令月にして 気淑く風和ぎ

春のよき日、甘い花の香りにつつまれて、歌を詠みあう人々がいた。
それは、万葉と令和の物語の始まり。



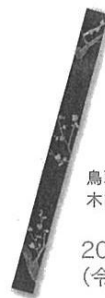
東京大会
木簡

2020年度
(令和2年)



高岡大会
木簡

2021年度
(令和3年)



鳥取大会
木簡

2022年度
(令和4年)

2019年度
(令和元年)

730年
(天平2年)

旅人、「梅花の宴」を催す

一月、大宰帥・大伴旅人の邸宅で、宴会が開かれる。
唐から渡ってきた美しい花木「梅」を見ながら、
三十二首の歌が詠まれた。

軽井沢G20環境関係閣僚会合「令和の大茶会」開催

2020文化庁日本博事業
「令和の万葉大茶会 東京大会」開催

多摩川に さらす手作り さらさらに
なにそこの児の ここだかなしき
(巻十四 3373 東歌)

「令和の万葉大茶会 2021 高岡大会」開催

馬並めて いざ打ち行かな
洪谿の 清き磯廻に 寄する波見に
(巻十七 3954 大伴家持)

「令和の万葉大茶会 2022 鳥取大会」開催

新しき年の始の 初春の
今日降る雪の いや重け吉事
(巻二十四 4516 大伴家持)



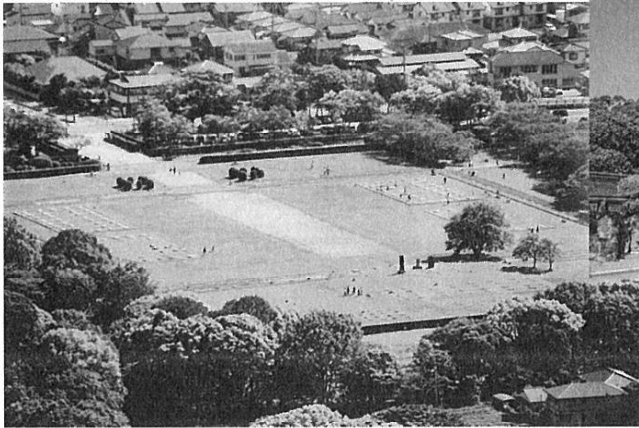
東京大会



高岡大会



鳥取大会



大宰府政庁跡



太宰府天満宮

EXPO
2025

大阪・関西万博

2025年度
(令和7年)

2023年度
(令和6年)

2024年度
(令和6年)

奈良県高市郡明日香村

大君は神にし坐せば
赤駒の匍匐ふ田井を都となしつ
(巻十九 4260 大伴御行)

宮城県多賀城市

大伴の遠つ神祖の奥つ城は
しるく標立て人の知るべく
(巻十八 4096 大伴家持)

「令和の万葉大茶会 2023年度太宰府大会」開催

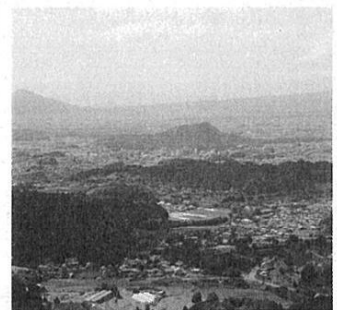
太宰府大会
木簡

わが園に梅の花散る
ひさかたの天より雪の流れ来るかも

(巻五 822 大伴旅人)



多賀城は、奈良・平安時代に陸奥国の国府が置かれたところで、奈良時代には鎮守府も置かれている。782年(天応2年)に65歳の家持が赴任。68歳で生涯を終えたとされる終焉の地。

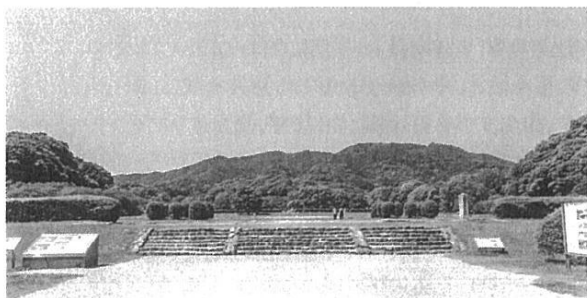


7世紀に建設された4時期(飛鳥岡本宮、飛鳥板蓋宮、後飛鳥岡本宮、飛鳥浄御原宮)の宮殿遺跡が残る。中央集権律令国家の誕生の地であり、「日本人の心の故郷」である。

太宰府における 万葉ゆかりの地



大宰府政庁跡

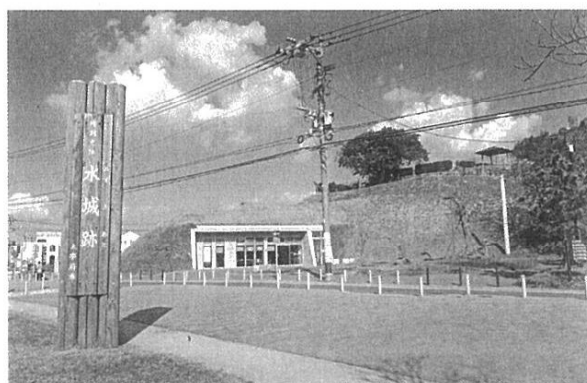


大宰府政庁跡は、7世紀後半から12世紀後半にかけて九州を管轄する行政機関であった「大宰府」の中心的な遺跡です。菅原道真の漢詩から、「都府楼跡」の名でも親しまれています。

「大宰府」は万葉集の中で「遠の朝廷」と呼ばれ、その中枢となる大宰府政庁では、壁と回廊で囲まれた広大な空間に立派な建物と広場があり、重要な政務・儀礼が行われました。

長い年月のなかで当時の建物は失われていますが、古代の重要な場であったことは地域の誇りとして受け継がれており、明治時代には大宰府を顕彰する3つの石碑が建てられています。現在は、日本の歴史を象徴する特に重要な遺跡であることから国の特別史跡に指定されて、周辺の景観を保持しながら文化財として保護されています。

水城跡



水城跡は、現在の太宰府市と大野城市の市境あたりに築かれた防衛施設「水城」の遺跡です。

天智天皇2年(663)、日本は友好国であった百済を救援するために朝鮮半島に出兵したものの、唐・新羅連合軍に大敗を喫しました(白村江の戦い)。反撃を恐れた日本は、大急ぎで防衛のための施設・水城をつくります。

水城跡は7世紀の緊迫した国際情勢を物語る遺跡であり、日本の歴史を象徴する特に重要な遺跡であることから、国の特別史跡に指定され、周辺の景観を保持しながら文化財として保護されています。

水城館の前には、大伴旅人が3年間の大宰府任官を終え、都に戻る際に水城で詠まれたとされる歌の歌碑があります。

坂本八幡宮



坂本八幡宮は、大宰府政庁跡の北西にある、応神天皇を祭る神社です。もとは戦国時代に建てられたと伝わり、坂本地区の守り神として地元の人々によって大切に守られてきました。この場所は、いま、新元号「令和」の発祥の地として注目を集めています。

「令和」は、日本最古の歌集『万葉集』に掲載されている「梅花の歌三十二首あわせて序」を典拠として名づけられました。この歌が詠まれた「梅花の宴」は、天平2年(730)に大宰府の長官であった大伴旅人の邸宅で開催された宴でした。旅人邸の正確な場所は不明ですが、その候補地のひとつとして、坂本八幡宮の場所が考えられています。

太宰府天満宮



太宰府天満宮は、平安時代の9世紀後半に活躍した菅原道真を祭神とする神社です。日本や世界からも多くの参拝者が訪れています。

天満宮神苑内(大茶会会場周辺)には、梅花の宴において詠まれた、大伴旅人が梅の花が散る様を雪に見立て詠んだ歌と、その歌に対する歌の2つの歌碑があります。

九州国立博物館



九州国立博物館は、太宰府天満宮の隣に建つ博物館です。太宰府への国立博物館誘致は地域の長年の夢であり、九州の政財界や地元住民の尽力によって、平成17年(2005)に実現しました。現在も「市民との共生」をテーマとして、地域と協力して運営されています。

九州国立博物館のバス駐車場付近には、都に戻った大伴旅人に届いた沙弥満誓の歌への返歌として、旅人の帰京した心情を詠んだとされる歌の歌碑があります。

梅花の宴再現イベント 13:00~14:00 会場:大宰府政庁跡

730年、大宰府で盛大に開かれた梅花の宴。

今日は、「梅花の宴」を、大宰府万葉会を中心とした参加者が再現します。

正月立ち 春の来らば

かくしこそ梅を招きつつ 樂しきを経め

(巻五 815 大貳紀卿)

梅の花今咲けるごと 散り過ぎず

わが家の園にありこせぬかも

(巻五 816 少貳小野大夫)

梅の花咲きたる園の 青柳は

蘊にすべくなりにけらずや

(巻五 817 少貳粟田大夫)

春さればまづ咲くやどの 梅の花

ひとり見つつや 春日暮らさむ

(巻五 818 筑前守山上大夫(山上憶良))

世の中は 恋繁しゑや

かくしあらば 梅の花にも成らましものを

(巻五 819 豊後守大伴大夫)

梅の花今盛りなり

思ふどち かざしにしてな 今盛りなり

(巻五 820 筑後守葛井大夫)

青柳 梅との花を 折りかざし

飲みての後は 散りぬともよし

(巻五 821 笠沙弥(沙弥満誓))

わが園に 梅の花散る

ひさかたの 天より雪の流れ来るかも

(巻五 822 主人(大伴旅人))

梅の花散らくはいづく

しかすがに この城の山に雪は降りつつ

(巻五 823 大監伴氏百代(大伴百代))

梅の花散らまく惜しみ

わが園の 竹の林に鶯鳴くも

(巻五 824 少監阿氏奥島(阿倍奥島))

梅の花咲きたる園の 青柳を

蘊にしつつ 遊び暮らさな

(巻五 825 少監土氏百村(土師百村))

うちなびく 春の柳と

わが宿の 梅の花とをいかに分かつ

(巻五 826 大興史氏大原)

春されば 木末隠れて鶯ぞ

鳴きて去ぬなる 梅が下枝に

(巻五 827 少典山氏若麻呂(山口若麿))

人ごとに 折りかざしつつ 遊べども

いやめづらしき 梅の花かも

(巻五 828 大判事丹氏麻呂)

梅の花咲きて散りなば

桜花 継ぎて咲くべくなりにてあらずや

(巻五 829 薬師張氏福子)

万代に 年は来経とも

梅の花絶ゆることなく 咲きたるべし

(巻五 830 筑前介佐氏子首)

年のはに 春の来らば

かくしこそ 梅をかざして 樂しく飲まめ

(巻五 833 大令史野氏宿奈麻呂)

梅の花今盛りなり

百鳥の 声の恋しき 春來たるらし

(巻五 834 少令史田氏肥人)

鶯の 声聞くなへに

梅の花 我家の園に咲きて散る見ゆ

(巻五 841 対馬目高氏老(高向老))

鶯の 待ちかてにせし 梅の花

散らずありこそ 思ふ子がため

(巻五 845 筑前壕門氏石足)

霞立つ 長き春日をかざせれど

いやなつかしき 梅の花かも

(巻五 846 小野氏淡理(小野田守))

プログラム

記念式典

会場：大宰府政庁跡

12:30～12:50

- ・主催者のあいさつ
- ・歓迎のあいさつ
- ・来賓のあいさつ

梅花の宴再現イベント見学

会場：大宰府政庁跡

13:00～14:00

梅花の宴のルーツ、太宰府にて、古代の風景を再現します。
ご希望の方は大宰府展示館見学、坂本八幡宮見学をご案内いたします。
その後バスにて、太宰府天満宮へ移動します。

令和の万葉大茶会

会場：太宰府天満宮文書館及び旧東屋（うぐいす茶屋横）

14:30～15:30

太宰府天満宮参道を万葉衣装でパレード後、2カ所に分かれ、
「令和の万葉大茶会」を開催します。

講演会・大会キー伝達式

会場：九州国立博物館 ミュージアムホール

16:00～18:30

- ・基調講演① テーマ：令和のふるさとで未来を考える ～地域がはぐくむ環境ビジネスとくらし～
講演者：平尾 禎秀 様（環境省 環境経済課長）
- ・基調講演② テーマ：旅人と家持
講演者：上野 誠 様（國學院大學文学部日本文学科 教授（特別選任）、奈良大学 名誉教授）
- ・各参加自治体による挨拶
[東京都 狛江市、富山県 高岡市、鳥取県 鳥取市、宮城県 多賀城市、奈良県 高市郡明日香村、鳥取県 倉吉市、埼玉県 行田市]
- ・福岡県と太宰府市より、宮城県多賀城市へ大会キー（木簡）の伝達

※上記終了後、ご希望者の方は、博多駅までのシャトルバスをご利用いただけます。

※交流会（希望者のみ）は、シャトルバスにてお送りします。

19:30～ ホテル日航福岡（福岡県福岡市博多区博多駅前2丁目18-25）



大宰府政庁跡



太宰府天満宮



九州国立博物館



新元号「令和」の典拠となった万葉集「梅花の宴」を再現する

このプロジェクトは、日本最古の歌集たる万葉集、その編纂者とされる「大伴家持」の生涯にクローズアップします。幼少期に父である大伴旅人が赴任した地・大宰府にて、舶来の梅を植え、その梅花を愛でる酒宴を興じ、新元号「令和」の典拠ともなった「梅花の宴」を茶会形式で再現致します。記念すべき第1回は、2020年、東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、国の特別名勝・特別史跡に指定されている会場周辺の中央区・浜離宮恩賜庭園で実施されました。

その後は、家持の人生ステージごとに、赴任地である富山県高岡市(2021年度・秋)→鳥取県鳥取市(2022年度・冬)→福岡県太宰府市(2023年度)→宮城県多賀城市(2024年度)と巡り、最後は関西地域ゆかり(大阪府・奈良県高市郡明日香村)の大阪万博(2025年度・没後1240年)での開催を目指します。特に多賀城市は、2024年に「多賀城創建1300年」を迎え、東日本大震災からの復興の意味でも象徴的イベントとなります。

実に万葉集では、約4500首のうち、1700首以上で動植物の歌が詠まれており、まさに三首に一首が、ありのままの自然に心を寄せた歌です。家持は、特に季節を意識して歌を詠んだ歌人であり、全20巻のうち、巻八と巻十は、「四季の景物」をテーマに編纂された巻となっています。また、家持の生きた時代は万葉時代の最後期、天平文化華やかかなりし時代ですが、一方で権力争いも続いた時期です。そのため、万葉集には、北九州の防衛についた「防人歌」や東国庶民の「東歌」といった、都びとだけでなく、多くの地方庶民の歌も含まれています。日本全国、その地域ならではの自然観や季節感を感じることができるのも万葉集の特色といえます。

こうした家持ゆかりの地域を巡り、和歌の世界観を知るとは、例え現代の生活環境や社会通念が変わろうとも、自然を尊び、人を愛し、死を悼む、といった、直接的で、素朴な日本人の心情に大きな隔たりがないことに改めて気づかされます。

環境問題が深刻なりし今こそ、古より自然を敬い、尊んできた日本人の精神性を問いなおすべきであり、「万葉集」は、それを学ぶ最高の教科書です。

また、本イベントでは、和歌に優れた英訳詩を付け、世界に発信も試みます。和歌を通し、家持の世界観を知ること、外国の方々も関西や太宰府だけでなく、そこから現存する家持ゆかりの他の地域へ足を運んで頂く新たなゴールデン・ルートの構築となるに違いありません。さらに、100年後の子供たちにも万葉集に詠まれる日本の四季が理解されるよう、自然環境や気候変動に配慮し、日本の最先端技術の結集である水素燃料電池より電源を調達し、CO₂を出さないように試みます。自然への敬意が、「万葉の時代から令和の時代」へと連綿と紡がれていることも重ねて発信致します。

令和・家持ネットワーク協議会(2020年1月記)

本事業では、「令和の万葉大茶会」と連携し、
「観光庁 インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」を活用しながら、
太宰府の観光振興・地域経済の活性化を目指します。

主 催 令和の都だざいふ万葉大茶会実行委員会
共 催 九州国立博物館
後 援 福岡県、太宰府市
協 賛 第一実業株式会社、株式会社エイブル、孫の手トラベル

助 成 観光庁、太宰府市
協 力 福岡市、九州大学 水素エネルギー国際研究センター
九州大学洋上風力研究教育センター
企 画 一般社団法人 令和・家持ネットワーク協議会